

産地戦略

実施主体 みやぎ仙南たまねぎ生産推進協議会
都道府県 宮城県
対象地域 大河原管内2市7町
白石市、角田市、蔵王町、七ヶ宿町、大河原町、
村田町、柴田町、川崎町、丸森町
実施期間 令和8～12年度
対象品目 たまねぎ（露地）



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

● 化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

宮城県南部の大河原管内では農地整備事業が複数地区で実施されていることに伴い、管内たまねぎ生産者とJAみやぎ仙南、各市町、宮城県が連携して、土地利用型園芸作物であるたまねぎの作付けを推進している。JAみやぎ仙南は令和元年10月にたまねぎ部会を設立し、作業機械と集出荷調製設備の共有によるたまねぎ生産の効率化を進めている。

一方、たまねぎ生産において収量と品質の確保のためには病害虫防除を徹底することが必須であり、そのため農薬散布回数が多いことが生産者の労力と環境負荷の面で課題となっている。

そこで、課題解決に向けた栽培方法を「グリーンな栽培体系」に位置づけ、構築と普及を図る。環境に配慮した栽培方法としてリビングマルチ（オオムギの間作）によるネギアザミウマの被害抑制、省力化に資する技術としてドローンによる農薬散布を導入し、環境負荷低減と安定生産の両立を図りながら作付け拡大を目指す。

現在の栽培体系 栽培マニュアルに記載のとおり



グリーンな栽培体系 栽培マニュアルに記載のとおり

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R7	目標R12	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	4	▶ 20	
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	0	▶ 1	
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	0	▶ 1	
省力化に資する技術の取組面積（ha）	0	▶ 1	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境	化学農薬のみの防除	▶ リビングマルチの導入	化学農薬（殺虫剤）の使用回数の削減
省力	ブームスプレーヤによる農薬散布	▶ ドローンによる農薬散布	作業能率向上による省力化

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境	化学農薬（殺虫剤）の使用回数（回）	3	▶ 1	リビングマルチによって、ネギアザミウマを対象とした殺虫剤を2剤削減
省力	ドローンによる農薬散布面積（ha）	0	▶ 1	ブームスプレーヤからドローンへの転換
			▶	
			▶	
			▶	

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）

* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

JAみやぎ仙南と宮城県が開催する栽培研修会でグリーンな栽培体系の導入効果と栽培方法を周知するとともに、JAみやぎ仙南たまねぎ部会員を対象に現地指導を実施することで普及拡大を図る。現地指導の際には当事業で作成したマニュアルと動画を積極的に活用する。

関係者の役割

関係者名	大河原農業改良普及センター	みやぎ仙南農業協同組合		
役割	グリーンな栽培体系の技術指導 技術情報の発信	栽培講習会の開催 産地戦略の取組推進		

その他